

2016 熊本地震被災地の障害者を救おう！

# 熊本地震大阪障害者支援ニュース vol.1

2016年4月28日(木) 2016 熊本地震大阪障害者緊急対策連絡会本部 (TEL06-6697-9005)



4月14日21時26分頃に熊本県熊本地方で発生した地震(前震)は、16日に新たに、マグニチュード7.3の本震が発生し、熊本県のみならず、大分県等へと地震規模を拡大し、現在も震度1以上の大艦余震は、910回を超し、今だ、その終息の見通しが立たない

状況が続いています。

報道や、各団体の情報等によると今回の地震の特徴は以下のような現状が継続しています。

- ① 屋外避難者(余震が怖く中に入れない、避難規模が大きく避難所への収容が困難)
- ② 車中泊等の増大により、エコノミークラス症候群等による災害関連死の増大
- ③ 継続する余震による復旧作業の遅れ
- ④ 避難所指定の教育機関の再開の遅れ
- ⑤ 救援物資の、被災者への配布の混乱(個別避難者の把握が困難、受け入れ態勢の不備等)
- ⑥ 福祉避難所の実質的稼働の困難性(1700名登録中、稼働は147名分)

等が指摘されています。

一方、コンビニ等での物資配給や宅配便の早期復旧等、民間ベースの復旧は、東日本大震災の教訓を受けて、かなり早期から進んでいます。また、ライフラインや交通網等も徐々に復旧が図られつつあります。

ただし、引き続き予断を許さない余震の状況や雨天時等の土砂災害等の危険性、さらに「地震揺れ酔い」等の健康被害の増大や子どもたちのトラウマ・ストレスの増大など長期化に伴い、その深刻さはますます増大することが予想されています。

しかも、「発達障害者に支援や配慮を 避難生活なじめずパニックも」等の報道があるように、避難所非難の困難さで車中泊や倒壊家屋での避難等による孤立化、福祉避難所等の未整備や介護職等の疲弊など、障害者・家族への支援は、やはり大きな困難を抱えたままの状況が進んでいます。

現地では、「被災地障害者センターくまもと」の設置や、JDF等の支援拠点等の設置も進められています。

## 大阪緊急対策連絡会を設置

大阪では、この間、各団体からの情報や現地被災者との連絡を受けながらその状況把握を行ってきましたが、東日本大震災の教訓を生かし、障害関係8者懇談会が緊急に会議を開催し、合同で「2016 熊本地震大阪障害者緊急対策連絡会」の設置を決定し、中央レベルで結成された、JDFの「災害総合支援本部」と連携した支援活動の展開、ODFにおける情報共有等を行うことを決定しました。今後、具体的な支援にあたって、物資や人材派遣等は、各団体と協力して、当該連絡会を窓口として支援を行っていくことになりますが、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

	DPI	JDF	JD	情報センター
	ゆめ風基金	災害総合支援本部	障全協	きょうされん 全障研
		(03-5273-0601)		
	KDF被災障害者支援センター(まもと)			支援拠点(調整中)
	096(234)7728			
		ODF		
	障害関係八者懇		事業懇話会	
		対策連絡会		
		(募金口座一本化)	専門家協力支援/パンフ等	
		支援本部		
	会計責任者 塩見	本部長 井上(資金決済)	事務局長 雨田	
行政調整	情報収集	情報発信	要員・物資集約	支援調整
○行政機関等との連絡調整 ○行政等への申し入れ	○被災地情報等の収集(全障研・きょうされん・障全協・全協・福保労・DPI) ○個別団体・厚労省関係からの発信資料(J・D・全社協・セルフ協・福祉協会)	○震災支援ニュースの発行 ○「支援の手引き」の情報収集及び改定 ○手引き補強資料の依頼 ○被災者広報の作成	○要員登録の整理 ○物資登録の整理	○要員派遣の調整 ○物資移送の調整 ○要員教育の徹底 ○要員報告の管理

また、こうしたニュースを媒介に適時現地の状況等を情報発信するとともに、支援者向けの「支援の手引き」等の発行や研修等も実施していく予定となっています。

また、熊本地震への障害関係の募金窓口も一本化することを決定し、幅広い協力をお願いしています。

\*\*\*\*\*  
**※大阪での支援募金受付窓口(東日本大震災時に開設された、共同口座を利用します。)**

◇ゆうちょ銀行

◇口座名

障連協 障害者(児)を守る全大阪連絡協議会

◇店番 ○九九

◇当座 0305963

\*\*\*\*\*

